

平成30年度 夕張市社会福祉協議会

事業報告書

本市においては、生活支援・介護予防サービスの充実を図るため、『生活支援体制整備事業』の実施により、高齢者の多様なニーズに対応するとともに、『住民主体の生活支援サービス』が拡充し、支え合いの体制を地域に作っていくこととなりました。本会として『生活支援コーディネーター活動事業』を市から委託を受け、すべての人が安心して暮らしていける地域づくりを目指し地域支え合い活動を行いました。

また、9月6日に発生した北海道胆振東部地震において、厚真町災害ボランティアセンターに3名の職員を5日間(9/18～9/22)派遣しました。被災地では被災者のニーズ調査や現地調査、ボランティアの受入調整やマッチング等の被災地支援活動を行いました。幸い夕張市では大きな被害が出ませんでしたが、自然災害はいつ起こるかわからないことから、災害ボランティアの必要性を再認識したところです。

さて、平成30年度の事業概要ですが、「老人福祉会館」は福祉拠点であることから管理経営について引き続き指定管理を受託しました。

「地域サロン活動事業」は関係地区協議会が主体となり、各々のアイデアにより運営を継続、「ふれあいサロン行政窓口業務」も市の委託を受け継続実施することにより地域住民の利便性確保に努めました。

記

◆◆主な事業の推進状況◆◆

1. 地域福祉活動の推進について

本市は高齢化率が50%を超えた超高齢地域であることから、地域毎の実情を考慮しながら、高齢者を中心とした「地域福祉」の推進を図り、住民が支え合いながら、安心・安全に暮らしていけるまちづくりを目指して事業を展開しました。

2. 住民参加によるネットワークづくりの強化について

「ふれあいサロン」は関係地区協議会が主体となり、町内会館等を活用して、各種相談窓口、お茶のみ会等を開催し、地域住民の憩い・情報提供の場を築いています。

また「ふれあいサロン行政窓口業務」は市の委託を受け、地区協が中心となり週3回、午前に開設し、各種書類の受付、進達、相談などを行い、リサイクル物品の回収など分散する地域の利便性向上に努めました。

3. 在宅福祉サービスについて

訪問介護事業につきましては、平成29年11月をもって、ヘルパーの退職により休止状態となっています。また、平成28年9月から始めた特定相談支援事業につきましては引き続き継続しています。

○事業実績の概要は次のとおりです。

(1) 居宅介護支援事業

居宅サービス計画（ケアプラン）の作成 624件

(2) 地域活動支援センター 延べ 197件 243回

(3) 特定相談支援事業

障がい者のためのサービス計画（ケアプラン）の作成 65件

(4) 人工透析患者の市外通院事業への支援について

通院移送業務は、利用者の負担金と市からの補助金により岩見沢市立病院に送迎しています。平成27年度から丸北ハイヤーが運行管理業務行っておりますが、市からの補助金に係る申請・精算など利用者の利便性確保と支援を継続しました。平成30年は年間5人の利用者が述べ156回利用されています。

4. 老人福祉会館の管理経営について

老人福祉会館は市内福祉活動の拠点、地域の高齢者が集う市内唯一の憩いの場であることから、引き続き指定管理を受託し、管理経営を行うこととしました。

人口の減少、高齢化の進行もありますが、年間利用者は、18,067人となり前年の19,838人から1,771人減少しました。ボランティアの協力を得ながら会館の受付や喫茶はっぴいクローバーの営業を始めいろいろお手伝いをいただいているところです。喫茶はっぴいクローバーは4年目を迎えることができました。喫茶は、利用者に大変喜ばれており、利用者は6,134人となりました。会館の運営には、市から一部助成をいただいておりますが、重油価格の乱高下や施設の老朽化が進行しており今後の安定経営が難しい状況になってきていますが、夕張市と連携をとりながら維持管理を行ってきまし

た。

なお、老人福祉会館に併設されている学童保育、地域活動支援センター利用者及び高齢者が一体となった共生型地域福祉拠点としての運営も行っていきます。

5. 児童・生徒通学バスの運行委託について

平成28年10月の夕鉄バスのダイヤ改正に伴い、便数が削減されたことから、小中学校の生徒のスクールバスの運行に関し、市教育委員会から社協が保有するバスをスクールバスとして運行して欲しい旨の依頼があり、緊急的な対応として、富野線の下校時の1路線を受け持つこととなりました。さらに、平成29年度からは南部線も受け持つこととなり、小・中学生の通学のほか高校生も対象となりました。

◆◆具体的な事業の推進状況◆◆

1. 老人福祉活動の推進

- ・9月の老人福祉月間行事として、「囲碁・将棋・麻雀大会」、「老人福祉大会」、また3月には「世代間スポーツ交流会」を実施しました。

2. 心身・精神障がい者福祉活動（ノーマライゼーション）の推進

- ・社会福祉施設等との連携をとりました。
- ・小規模作業所への支援を行いました。

3. 在宅福祉サービス及びボランティア活動の推進

- ・各種サービスを次のとおり実施しました。

配食サービス：延べ36回の配食を実施しました。

（南清水沢24回延べ333人、南部12回、延べ37人）

福祉有償移送サービス：市内、市外の病院等へ延べ683件、341人の移送を実施しました。

- ・道社協ボランティア部会への参加

4. 地域福祉活動の推進

- ・各在宅福祉サービス推進委員会の活動実施状況

○昼食会等の食事会の実施 ○福祉訪問の実施 ○地域行事の参加

○研修旅行の実施 ○配食サービスの実施

- ・「福祉ふれあい広場」（ゆうばり社協福祉文化フェスティバル）の開催については9月6日に発生した北海道胆振東部地震により中止しました。
- ・救急医療情報キット「命のバトン」の継続配布をしました。
- ・日常生活自立支援事業の実施（延べ36件、56回）

〔日常生活自立支援事業の概要〕

*認知症高齢者、知的障がい・精神障がいのある方で、判断能力が不十分なため、日常生活を送るうえで支障がある方

・本人だけでは、生活するうえで必要なサービスを利用するための情報の入手、理解、判断、意思表示を適切に行うことが困難な方

・事業の契約の内容について判断できる能力を有していると認められる方

*サービスの内容

- ・日常的な生活支援サービス（福祉サービスの情報提供や利用のお手伝い。本人あてに送付される書類などの内容の確認など）
- ・金銭管理サービス（公共料金などの支払い、預金を金融機関で払い戻すなど、日常生活費の管理のお手伝い。）
- ・財産保全サービス（年金証書、定期預金通帳など、普段使わない大切な書類等の銀行貸金庫での預かり）

5. 相談活動の推進

- ・心配ごと相談・行政相談のほか、消費生活相談を受けました。
（心配ごと・行政相談：相談件数5件、消費生活相談：相談件数11件）

6. 低所得者福祉活動の推進

- ・生活困窮者一時貸付金制度は、社協が行っていた貸付事業は中止いたしました。なお道社協の委託事業である生活福祉資金貸付は、引き続き貸付事業の相談を受け付けています。

7. 大会及び研究協議会活動の推進

- ・道社協、管内社会福祉協議会、空知地区推進会議等が主催する各種研修会研究協議会へ参加し研鑽に努めました。
- ・夕張市民生児童委員協議会、夕張市老人クラブ連合会等の各種会議に参加し情報交換に努めたほか、事業の支援を行いました。

8. 広報活動の推進（年2回社協ふくしだよりの発行、社協ホームページの運営）

9. スクールバスの運行

平成28年10月から富野線の小・中学生下校時、平成29年度からは南部・富野線の小・中・高生下校時のスクールバスの運行を行いました。

(運行回数175回、乗車人数2,843人)

10. 福祉団体活動の推進

生活支援コーディネーター活動事業で、清水沢・南清水沢地区において地域ささえあい連絡会議を3回開催しました。

11. 道並びに近隣市町村社協との連携強化

12. 共同募金運動並びに歳末たすけあい運動への協力

13. 会務の運営

理 事 会	3回開催
評 議 員 会	2回開催
正副会長会議	2回開催
地区協連絡会議	1回開催
定 期 監 査	4回実施

平成30年度事業報告の附属明細書

平成30年度事業報告には、定款第39条第1項第2号に規定する附属明細書の「事業報告の内容を補足する重要な事項」はありません。